

ぞうひら 蔵平遺跡 範囲確認調査

所在地 豊田市下山田代町蔵平・
田折町和倉地内

(北緯 35 度 1 分 7 秒
東経 137 度 18 分 31 秒)

調査理由 豊田・岡崎地区研究開発施設用地
造成事業

調査期間 平成 24 年 8 月～平成 24 年 12 月

調査面積 150 m²

担当者 鵜飼雅弘・伊奈和彦・本田英貴

調査の経過 豊田・岡崎地区研究開発施設用地造成に伴う範囲確認調査として、
愛知県企業庁より委託を受け実施した。

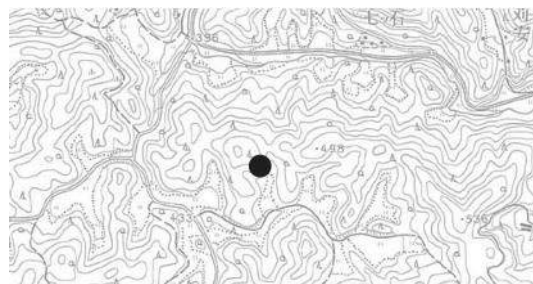
立地と環境 調査対象地は郡界川の左岸とその支流である沖川右岸に挟まれた丘陵や谷で、東側は和倉遺跡、南東は蔵平遺跡（今回の調査以前の遺跡範囲）が隣接する。地形的には、4つの尾根（北尾根、南尾根、北尾根から西に延びる尾根、北西に延びる尾根）を中心として大小の谷が入り組んでおり、現況は山林である。

調査の概要 広範囲にわたって試掘坑（テストトレンチ。以下 TT と略す。）を設定して遺構の有無、遺物の出土状況を調査した。試掘坑設定地点を地形的に大別すると①沖川右岸に向けて開口した谷に 7 か所（TT01～07）、②北西に延びる尾根に 4 か所（TT08～11）、③南尾根及びその斜面に 25 か所（TT12～22、26～33、68～73）、④北尾根及びその斜面に 19 か所（TT25、37～51、66、74、75）、⑤南北尾根の間の鞍部とその斜面に 7 か所（TT23、24、34～36、64、67）、⑥北尾根から西に延びる尾根斜面に 13 か所（TT52～63）の計 75 か所である。

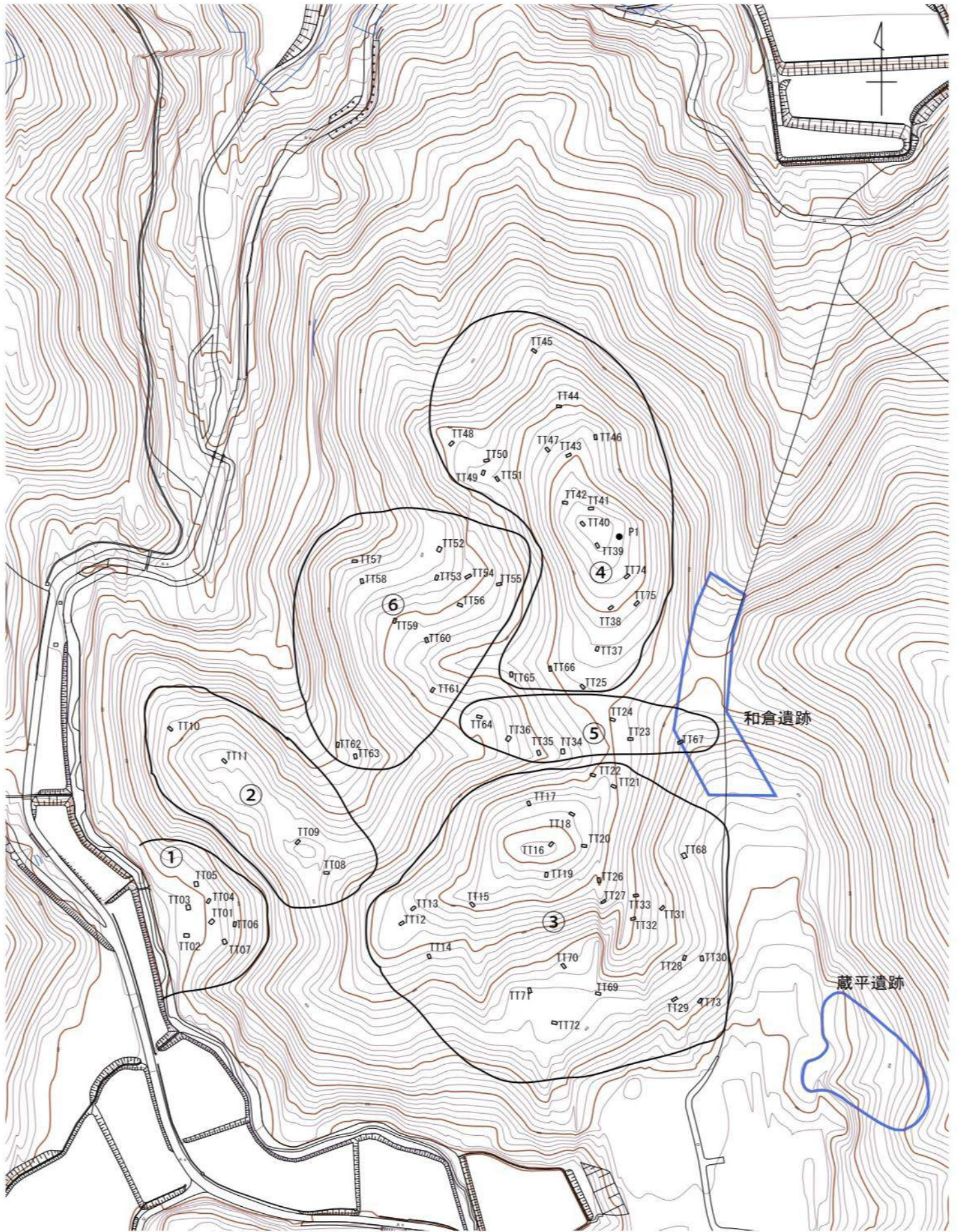
土層については、表土下に部分的に黒褐色土層が見られるものの遺物は包含しておらず、概ね明黄褐色から明赤褐色を呈する風化花崗岩が土壌化した層が基盤層である。

まとめ 調査の結果、和倉遺跡の西側尾根頂部の TT40 から弥生土器と古代の土師器が出土し、和倉遺跡が西に広がることがわかった。また蔵平遺跡の西側尾根南東斜面裾部分の TT73 から須恵器と灰釉陶器が出土し、蔵平遺跡が谷を挟んだ西側に広がることがわかった。その他の試掘坑では炭焼窯以外には遺構・遺物とも検出できなかった。

(伊奈和彦)



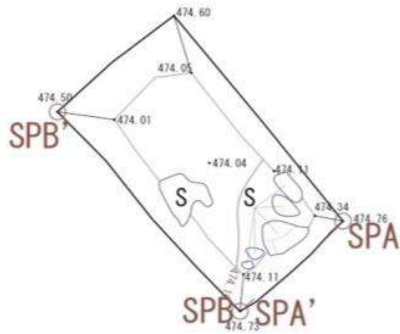
調査地点 (国土地理院 1/2.5 万地形図「東大沼」)



S=1:2000

トレンチ位置図

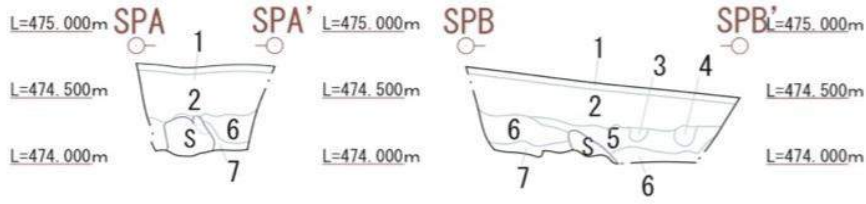
TT40平面図・断面図 (S = 1:40)



(断面写真)

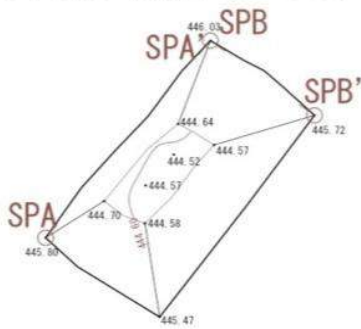


(遺物写真)



- 1 腐葉土
- 2 7.5YR3/3 暗褐色 粘質シルト (遺物包含層)
- 3 7.5YR3/3暗褐色粘質シルト7.5YR5/3にぶい褐色粘質シルトが珷入
- 4 7.5YR3/3暗褐色粘質シルト7.5YR5/3にぶい褐色粘質シルトが珷入
- 5 7.5YR5/3 にぶい褐色 粘質シルト (風化花崗岩中礫が混じる しまりなし)
- 6 7.5YR4/6 褐色 粘質シルト (しまりなし)
- 7 7.5YR5/6 明褐色 粘質シルト (風化花崗岩巨礫が混じる)

TT73平面図・断面図 (S = 1:40)



(断面写真)

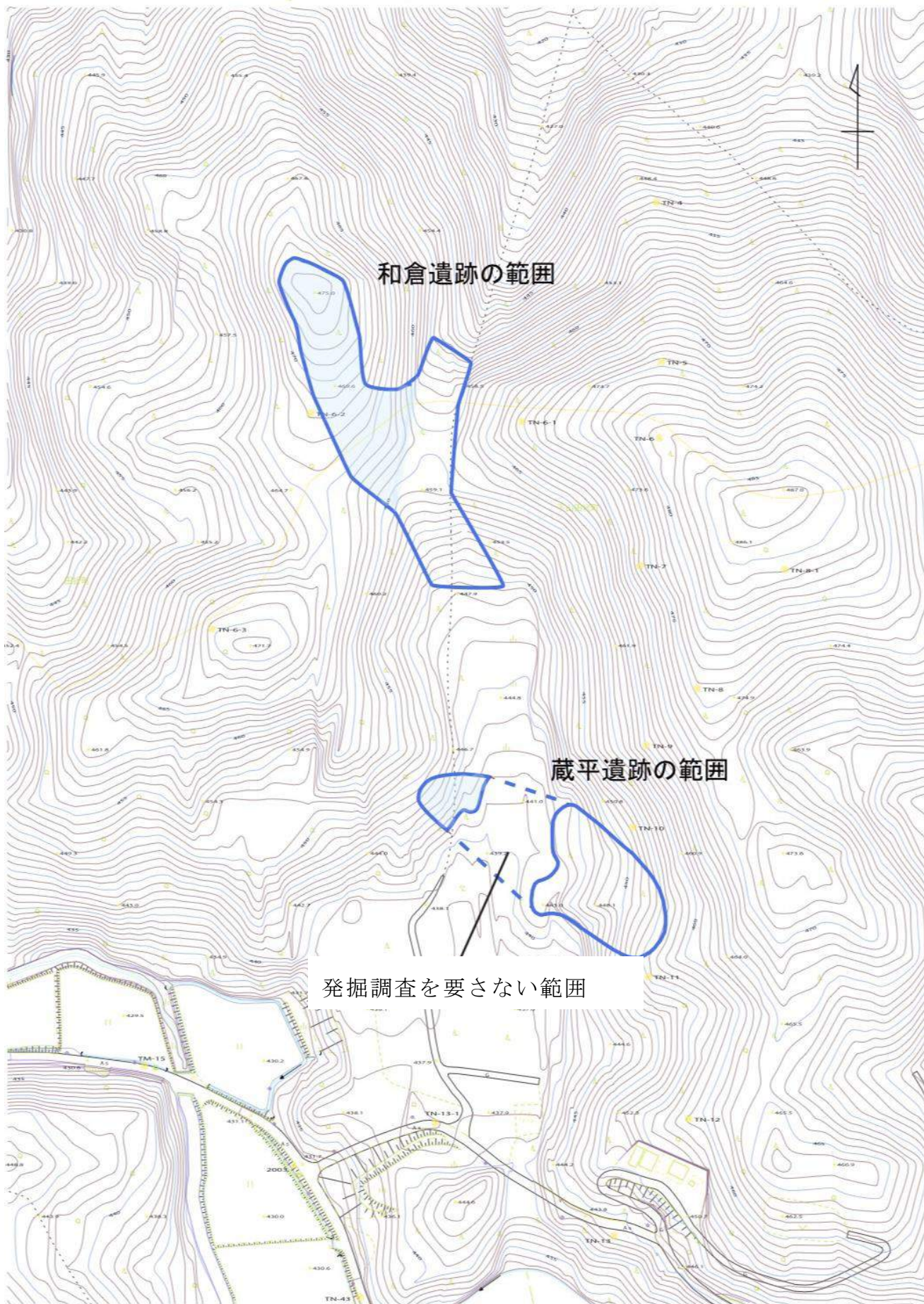


(遺物写真)



- 1 腐葉土
- 2 10YR5/3 にぶい黄褐色 シルト
- 3 7.5YR5/6 明褐色 シルト
- 4 10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト
- 5 7.5YR6/6 橙色 粘土
- 6 7.5YR6/6 橙色 粘土 (中礫多量含む)

トレンチ平面図・断面図、遺物写真



S=1:2000



今年度の範囲確認調査によって遺跡範囲が広がった部分

和倉遺跡・蔵平遺跡の範囲